

中期経営計画

平成27年度～平成29年度

株式会社 じもとホールディングス

株式会社 きらやか銀行

株式会社 仙台銀行

県境を越えた地域金融グループの特徴を最大限発揮し

本気で本業支援に取り組む

「人・情報・産業」をつなぎ

地域経済の復興・創生に貢献する

お客さま じもと地域に喜んでもらえるグループとなる



新中期経営計画の基本方針 キーワード

- ◆ じもとグループ独自のビジネスモデルを追求し、経営基盤を強化する。
- ◆ 統合効果を最大限追求する。

【キーワード】 ~本気の本業支援~ ~本気の統合効果発揮~



新中期経営計画の柱

「本業支援」の進化・発展

—グループの特徴を発揮—

地方創生への貢献

- ・ コンサルティング機能発揮
- ・ 創業、成長支援
- ・ 事業承継、再生支援
- ・ 県境を越えた情報提供強化

お客様の事業、本業の

向上のために

- ・ 組織的な本業支援強化
- ・ 震災復興への支援
- ・ 宮城と山形を繋ぐ
- ・ 外部機関との連携

経営の効率化・合理化

—統合効果・相乗効果を発揮—

共同化

- ・ 本部管理部門統合
- ・ 事務作業等集中業務統合
- ・ HDへの集約化
- ・ HD機能を活用した
グループ態勢充実

統一化

- ・ サブシステムの統一
- ・ 業務運営の統一



計画の柱 「本業支援」の進化・発展 ～本気の本業支援～

目的（グループの思い）

手段（どのように）

結果

なぜ本業支援に取り組むか
銀行員としての使命は

- 地域の喜び**
- ・地元産業活性化
 - ・地元貢献する情報提供
 - ・住みここのよい地域

- お客さまの喜び**
- ・悩み、課題が解決
 - ・本業が成功
 - ・新たな事業展開

じもとグループの特徴明確化

—お客様から評価いただく本業支援—

- ◆本気で地元を考える
- ◆本気で地元中小企業を応援する
- ◆本気で本業支援を実践し、グループの「存在感」を高める

◆HD本業支援戦略部の態勢充実・強化

- 専門担当者による支援、指導体制充実
- 情報収集、管理フローのしくみ充実
- コーディネーターの行動の見直し
- ビジネスマッチング情報、提案ツール作成
- 新たな収益モデルの検討

◆営業店の態勢

- 情報の取り扱いのスピード化
- 業績評価配分の再検討

◆人材育成

- 合同研修会開催
- 営業店別「本業支援検討会」の取組み強化
- 専門担当者による行員の個別指導体制

◆さらなる特徴発揮

- 本業支援の提案先の拡大
- 顧客認知度を高める行動と意識の向上

◆地域経済活性化への対応

- 地域密着型金融（リレバン）の徹底・強化
- 震災復興の情報収集、復興団体との連携
- 「宮城・山形をつなぐ運動」の取組強化
- 外部機関（産・学・官等）との連携強化
- 新たな支援ファンドへの参加検討
- 県境を越えた情報提供による地域経済活性化

グループの特徴
明確化

地方創生への貢献

震災復興
復興需要への対応

中小企業融資強化

貸出金利息収益増
貸出金利低下抑止

新たな収益
モデル創出



計画の柱「経営の効率化・合理化」 ～本気の統合効果発揮～

目的（グループの思い）

手段（どのように）

成果（目指すところ）

なぜ効率化・合理化に取り組むか

経費削減

- ・物件費の削減
- ・組織統一で人員傾斜配分

経営資源の再配分

- ・組織統一でグループ力強化
- ・効率化で時間創出
- ・共同化でノウハウ共有

“経営効率化・合理化に取り組んで
……得られるものとは”

- ◆グループの特徴を明確化
(本業支援体制、復興支援体制の強化)
- ◆収益力の強化（経費削減）
- ◆就業環境の向上

- ◆サブシステムの統一
 - 全てのサブシステムを統一化
 - 統一化スケジュールを作成し実行管理を徹底

- ◆基幹系システムの統一と併せ事務フローや運用を統一
 - 業務運営の統一

- ◆営業店の集中事務、支援業務の共同化の検討
(関連会社、外部委託の検討)
 - 集中業務の統一推進

- ◆本部管理部門の統一化
 - バックオフィスの統一化、集約化
(両行間の業務委託、HDへの集約化)

- ◆HD機能を活用したグループ態勢充実
 - 持ち株会社傘下形態等による業務充実

- ◆組織、権限、用語の統一
 - 人事制度の統一

統合効果の実現

「強み」に
経営資源投下

本業支援態勢
の強化

効率的リテール
体制の構築

収益力強化

企業価値の向上等

企業価値の向上等

- ◆ IR活動（地域・株主・アナリスト）、広報態勢の充実
- ◆ 株主優待制度の検討
- ◆ 継続的安定配当の実施
- ◆ 外部格付の向上

金融関連法制・諸規制等への対応

- ◆ バーゼル規制への対応
- ◆ 改正会社法、コーポレートガバナンスコード等対応

内部管理態勢の強化

- ◆ 金融環境の変化に機動的に対応することができる内部管理態勢の強化

- ◆ 業務の効率化を図る一方、リスク管理・コンプライアンス・内部監査態勢を一層強化



平成30年3月期（中期経営計画最終年度）グループの目指すべき計数計画

項目	単位	30/3期（計画）			
		きらやか銀行		グループ合算	
コア業務純益	億円	きらやか銀行	47	グループ合算	75
		仙台銀行	28		
コアOHR	%	きらやか銀行	76.9	グループ合算	77.3
		仙台銀行	78.0		
当期純利益 （税引後）	億円	きらやか銀行	27	グループ合算	40
		仙台銀行	13		
貸出金平残	億円	きらやか銀行	10,110	グループ合算	17,013
		仙台銀行	6,903		
預金平残	億円	きらやか銀行	13,660	グループ合算	24,924
		仙台銀行	11,264		